

GIGAスクール構想のもとでの国語科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの国語科の指導において ICTを活用する際のポイント

国語科における「学習過程」とICTの活用場面

新学習指導要領では、国語科の指導の改善・充実を図る観点から、〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。GIGAスクール構想のもとでのICTの効果的な活用についても、この学習過程を踏まえて、活用場面を考えることができる。

国語科の学習過程 ※必ずしも一方向、順序性のある流れではない。

考えられるICT活用場面

※以下の各場面は、あくまで本資料として便宜的に挙げたものであり、特定の学習過程と紐づくものでも、固定的に捉えるべきものでもない。

A 話すこと・聞くこと			B 書くこと	C 読むこと
<話すこと>	<聞くこと>	<話し合うこと>		
話題の設定	話題の設定	話題の設定	題材の設定	構造と内容の把握
情報の収集	情報の収集	情報の収集	情報の収集	
内容の検討	構造と内容の把握	内容の検討	内容の検討	精査・解釈
構成の検討		内容の検討	構成の検討	
考えの形成	精査・解釈	話合いの進め方の検討	考えの形成	考えの形成
表現	考えの形成	考えの形成	記述	
共有	共有	共有	推敲	共有
			共有	

情報を収集して整理する場面

自分の考えを深める場面

考えたことを表現・共有する場面

知識・技能の習得を図る場面

学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

GIGAスクール構想のもとでの国語科の指導において ICTを活用する際のポイント

場面に応じた国語科におけるICT活用のイメージ（例）

情報を収集して整理する場面

- インターネットを活用して学習課題に関連する情報を調べ、集めた情報を内容に応じて整理する。
- 収集した情報を各自のフォルダに保存し、表計算ソフトなどを利用してデータベース化する。

自分の考えを深める場面

- 自分で考えたことを画面上の付箋に書き出し、その付箋を目的や意図に応じて分類する。
- プレゼンテーションソフト上でスライドを並べ替えるなどして、自分の伝えたいことがより明確に伝わるよう、目的や意図、相手に応じて用いる情報を取捨選択したり、話や文章の構成を考えたりする。
- デジタル教科書上で自分が重要だと考えた箇所に線を引き、友達と比較するなどして、考え直した場合に線を引き直す。

考えたことを表現・共有する場面

- カメラ付のICT端末を使って録画・保存したスピーチや話合いの動画を、各自で再生しながら話し方等を確認し、良い点や改善点についてコメントをフォルダ内の共有ファイルに書き込む。
- プレゼンテーションソフトを活用して、各自のテーマに即した発表資料をそれぞれ作成する。

知識・技能の習得を図る場面

- 古文や漢文等の教材となる動画を各自の目的に応じて選択・視聴し、言葉の響きやリズムに親しむ。
- 書写の指導において、デジタル教科書等を活用して、点画の書き方への理解を深める。

学習の見通しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

- 各自の目的に応じてモデルとなるスピーチの動画を視聴し、学習の見通しをもつ。
- 以降の学習における様々な学習活動において自分の必要に応じて適宜参照できるように、学習した内容を個人のフォルダに蓄積する。

中学校・第3学年・国語科「B書くこと」(推敲) ①

育成を目指す資質・能力 (主たる指導事項)

第3学年「B書くこと」

Ⅰ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。

ICT活用のポイント

文書作成ソフトを使って文章を書くことで、

- ① **コメント機能**を用いて助言し合ったり、助言に対する自分の考えを書き留めたりすることができる。
- ② **校閲機能**を用いて推敲することができる。
- ③ 教師は、①②の**履歴を確認**することで、適切な評価を行うことができる。

「B書くこと」 の学習過程

題材の設定

情報の収集

内容の検討

構成の検討

考えの形成

記述

推敲

共有

主たる学習活動

単元「関心のある事柄について投書を書く ～多様な読み手を想定して文章全体を整える～」(第3学年・4時間)

- 関心のある事柄から新聞に投書する題材を決め、自分の意見と根拠を整理する。
- 文章作成ソフトで**下書きを入力**する。
- グループで下書きを読み合い、分かりにくい部分等について**コメント機能**を用いて確認し合う。
- 投書にふさわしい表現について考える。
- 読み手の立場に立って自分の下書きを読み、目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。
- 文章作成ソフトの**校閲機能**を用いて推敲する。
- 希望者は、清書した**データを投稿**する。



← 投稿の準備を進める生徒

(単元終了時)

コメントや校閲機能による修正の跡が残っているデータを教師に提出。

中学校・第3学年・国語科「B書くこと」(推敲) ②

【事例におけるICT活用場面①-1】

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

先日、いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔で返してくれた。

一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉が教えてもらったことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

コメント【P1】:いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【P2】:誰の言葉?(山田)

コメント【P3】:誰から?(佐藤)

コメント【P4】:誰から教えてもらったかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。

検討後、推敲

【事例におけるICT活用場面①-2】

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

① 先日、下校時にうれしいことがあった。横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって通り過ぎた。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔で返してくれた。

② テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。③「一生道を譲り続けたとしても、それでも合計は百歩にも満たない。」ならないという中国の古典の言葉を学校の先生から教えてもらったことがある。④ ちよつと道を譲ったとしても大きな損はないと思えば、心にゆとりが生まれるはずだ。

私は、笑顔で道を譲ったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を大切にしてみませんか。

コメント【P1】:いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【P2】:誰の言葉?(山田)

コメント【P3】:誰から?(佐藤)

コメント【P4】:誰から教えてもらったかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。

自分のコメント【P1】を踏まえ、削除。

自分のコメント【P1】を踏まえ、追加。

友達からのコメント【P3, 4】を踏まえ、修正。

【コメント機能の使用例と活用のポイント等】

- 下書きを交流し、生徒Pの文章について友達が気付いた点等を入力する(要記名)。
- 下書きを読み直し、自分(生徒P)が気付いた点を入力する。
- 入力してくれた友達のコメントを読んで、更に気付いた点等を自分(生徒P)で入力する。

➤ 互いに助言し合うことに有効。その際、記名させることで、以下の場面で特に有効。

- コメントの意図を尋ねたり、よりよい表現を互いに助言し合ったりする場面
- 教師が生徒の学習の状況を把握する場面

➤ 友達への助言に活用するだけでなく、例えば、以下の点を考えさせて書き留めさせることが有効。

- 助言に対する自分の考え
- 自分の文章を読み返して考えたこと(よい点や改善点)
→コメントを付すことが自分の文章を客観的に読むことにつながる。

➤ 教師も生徒とともに助言したり、回収後のフィードバックに活用したりすることにも有効。

→授業中に十分指導できなかった生徒等への対応が可能。

【活用したソフトや機能】 文章作成ソフト